

請求の範囲

- [請求項1] 空気中の対象物質を吸着すると共に吸着している前記対象物質が脱離する吸脱着部（122）を備え、
- 前記吸脱着部（122）は、前記対象物質の吸着時にエネルギーを蓄積し且つ蓄積した当該エネルギーの少なくとも一部を前記対象物質の脱離時に放出することを特徴とする空気質の調整システム。
- [請求項2] 空気中の対象物質を吸着する吸着領域（122a）及び吸着している前記対象物質が脱離する脱離領域（122b）を有する吸脱着部（122）と、
- 、
- 前記吸着領域（122a）の上流側に設けられ且つ前記吸着領域（122a）に流入する空気を冷却する冷却部（128）とを備え、
- 前記吸脱着部（122）は、前記吸着領域（122a）から流出する空気の空気状態から、前記吸着領域（122a）に吸着される前記対象物質に残留するエネルギー、前記吸脱着部（122）における空気の摩擦熱、及び、前記吸脱着部（122）の熱容量による熱の出入を除いた空気状態における等エンタルピー線上よりも高い温度において前記対象物質を吸着することを特徴とする空気質の調整システム。
- [請求項3] 請求項2において、
- 前記脱離領域（122b）の上流側に設けられ且つ前記脱離領域（122b）に流入する空気を加熱する加熱部（126）をさらに備え、
- 前記吸脱着部（122）は、前記脱離領域（122b）から流出する空気の空気状態から、前記脱離領域（122b）から脱離する前記対象物質に残留するエネルギー、前記吸脱着部（122）における空気の摩擦熱、及び、前記吸脱着部（122）の熱容量による熱の出入を除いた空気状態における等エンタルピー線上よりも低い温度において前記対象物質を脱離する

ことを特徴とする空気質の調整システム。

- [請求項4] 空気中の対象物質を吸着する吸着領域（122a）及び吸着している前記対象物質が脱離する脱離領域（122b）を有する吸脱着部（122）と、
、
前記脱離領域（122b）の上流側に設けられ且つ前記脱離領域（122b）に流入する空気を加熱する加熱部（126）とを備え、
前記吸脱着部（122）は、前記脱離領域（122b）から流出する空気の空気状態から、前記脱離領域（122b）から脱離する前記対象物質に残留するエネルギー、前記吸脱着部（122）における空気の摩擦熱、及び、前記吸脱着部（122）の熱容量による熱の出入を除いた空気状態における等エンタルピー線上よりも低い温度において前記対象物質を脱離する
ことを特徴とする空気質の調整システム。

- [請求項5] 空気中の対象物質を吸着すると共に吸着している前記対象物質が脱離する吸脱着部（122）と、
前記吸脱着部（122）の温度を調整する調整部（126, 128）とを備え、
前記調整部（126, 128）は、前記吸脱着部（122）で吸脱着される前記対象物質に残留するエネルギー、前記吸脱着部（122）における空気の摩擦熱、及び、前記吸脱着部（122）の熱容量による熱の出入を除いたエネルギーバランスで見たときに、前記吸脱着部（122）への流入前後での空気のエネルギー差よりも小さいエネルギー量を、前記対象物質の吸着時には前記吸脱着部（122）から奪い、前記対象物質の脱離時には前記吸脱着部（122）に与える
ことを特徴とする空気質の調整システム。

- [請求項6] 請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項において、
前記吸脱着部（122）は、前記対象物質の吸脱着に応じて発生する吸脱着熱エネルギーを構造変化エネルギーに変換する材料で構成され

る

ことを特徴とする空気質の調整システム。

[請求項7]

請求項6において、

前記材料は、構造柔軟性を有する金属有機構造体であることを特徴とする空気質の調整システム。